



写真=小島一郎
©Hiroko Kojima

Winter in a Vision

— 幻の冬 —

自由に、激しく空間を無尽に舞う弓、蛇腹。圧倒的な才能で未知なる音を開拓するヴァイオリニスト喜多直毅が、オリジナル曲を奏でる四重奏団。アルゼンチンタンゴの手法を基調としつつフリージャズ、即興音楽、オルタナティブロックなどの要素を融合した孤高のインストルメンタルミュージック。壮絶たる重み、激しさ、そして美しさ。

喜多直毅クアルテット・コンサート2015

【日時】 2015年1月29日 [木]

【会場】 東京オペラシティ
リサイタルホール [265席]

【出演】 喜多直毅クアルテット

喜多直毅 [ヴァイオリン]
北村聡 [バンドネオン]
三枝伸太郎 [ピアノ]
田辺和弘 [コントラバス]

【料金】

前売り 3,500円 / 当日 4,000円

【チケット取り扱い】 東京オペラシティチケットセンター

tel: 03-5353-9999

e+ (イープラス) <http://eplus.jp>

【主催 / 企画制作】 株式会社ソングエクス・ジャズ / pianohouse.mmg

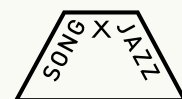
【協賛】 shin-ichi tokunaga

【総合お問い合わせ】 株式会社ソングエクス・ジャズ

tel: 03-3257-3404 e-mail: info@songxjazz.com



pianohouse.mmg



SONG X LIVE 023

この音楽を聴いて、タンゴだ、とおもう人がいるだろう。タンゴじゃない、とおもう人がいるかもしれない。どちらのおもいもない人がいる。おそらく、どれも正しい。楽器の組みあわせや節まわし、音色のつくり、は、たしかにアルゼンチンで生まれた音楽に由来しているよう。そしてその音楽が持っている諸々の感情へのはたらきかけがあり、そのうえにたって『Winter in a Vision』の各曲は発想されている。だが、喜多直毅クアルテットが、ここで自らの手で、指で、腕で、音を発してゆくその生の音楽は、影響を受けたり、自分たちがレパトリーとして演奏してきたり、インスパイアされたりといった音楽の、もうすこし先のところで生まれている。それが大事なところだ。それは名がないし、名がある必要もない。既存の楽曲を演奏=解釈するのではなく、わざわざ五線に音符をひとつひとつ書きこみ、メンバーにわたして、リハーサルでやりとりしながら、練りあげてゆき、さらに本番でひとつのかたちをとる、そのプロセスのなかでは、以前はあったかもしれない区分とかジャンルの名はすっかり掠れてしまい、ただ、ここでやっている音楽があるだけになる。

このジャケットの写真、東北を撮りつけ、天逝した小島一郎(1924-1964)のもの。このアルバムには、それぞれの楽曲のタイトルと、ジャケットに用いられている写真と、岩手出身の喜多直毅の故郷へのおもいかさねられている。それは、音楽そのものとはかならずしもつながっていないかもしれない。つながってなどいないかもしれないけれども、北半球の岩手から南半球のアルゼンチンをぐるっとまわって生まれてくる音楽を、わたしは、ひとつの力として聴いた。

小沼 純一 [音楽・文芸評論家/早稲田大学教授]



喜多直毅クアルテット

2011年、ヴァイオリニスト喜多直毅によって結成された四重奏団。演奏される楽曲はすべて喜多のオリジナル作品であり、その出自も言うべきアルゼンチン・タンゴからフリージャズ、即興演奏、現代音楽まで、様々な要素を呑み込んで再構築された、比類なき音楽だ。4人のメンバーは、それぞれの楽器における国内屈指のタンゴ奏者と目されつつ、圧倒的な実力により、ジャンルを超えてシーンの最先端で活躍している。この4人においてこそ実現する超絶なる表現が、聴衆の気魂を揺さぶり、“ドゥエンデ”を呼び醒ます。

喜多直毅 [ヴァイオリン]

国立音楽大学にてヴァイオリンを専攻後、三年間に渡り渡英して作曲とジャズ理論を学ぶ。その後アルゼンチンにて、フェルナンド・スアレス・パス (vln) にタンゴ奏法を師事する。帰国後はタンゴ演奏を中心としながらも、その活動の軸足をタンゴ以外の分野へと移し、鬼怒無月 (gt) 率いる「サル・ガヴォ」に参加。タンゴとアヴァンギャルド・ロックの融合を目指すこのグループは渡欧し好評を博した。活動の範囲をヨーロッパの即興音楽シーンに広げる一方、出自とも言うべきアルゼンチン・タンゴとこれまでの音楽的知識と体験を融合すべく、2011年、喜多直毅クアルテットを結成。



北村聡 [バンドネオン]

1979年生。関西大学在学中にバンドネオンに出会い、小松亮太に師事。アルゼンチンでフリオ・バネ (Bn) のレッスンを受ける。03年レオポルド・フェデリコの日公演に参加。10年オルケスタ・アウロラでブエノスアイレス、モンテビデオのフェスティバルに出演し成功を収め、2011年にはピアソラ没後20年記念公演「ブエノスアイレスの四季」でフェスティバル・オーケストラの一員として演奏した。美しい音色と繊細な表現には定評があり、喜多直毅クアルテット・サウンドの要となっている。



三枝伸太郎 [ピアノ]

2008年よりバンドネオン奏者、小松亮太氏のグループに参加。映画音楽『あゝ闇謀』『センチメンタルヤスコ』『Frog』『茜さす部屋』『ブーケガルニ』、演劇『人生はショータイム』『パパ・タラフマラの白雪姫』、ミュージカル作品として『Diary - What your wish...? -』などを手がけるなど、各方面から注目を浴びている。喜多直毅クアルテットでは深く美しい演奏に徹する一方、内部奏法でも美音を極める。



田辺和弘 [コントラバス]

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京芸術大学を卒業。コントラバスを渡辺彰考、永島義男、ツオルト・ティバイに師事。オスバルド・ベリンジェリ、ビクトル・ラバジェン、ホセ・コランジェロ、ウーゴ・バガノーなどのアルゼンチンのタンゴアーティストとも多く共演している。最近では齋藤徹とのベースアンサンブルに参加し、それ以来即興演奏を交えた音楽にも興味をもち、喜多直毅クアルテットにも参加。深くも鋭いボトムを支えている。



2014年10月22日 [水] 発売!

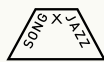


喜多直毅クアルテット WINTER IN A VISION

PMMG 1001 (SONG X 023)
定価 2,500円 + 税



pianohouse.mmg



World Class Accurate Sound

ECLIPSE

FUJITSU TEN

TD-M1

WIRELESS SPEAKER SYSTEM

世界最高レベルの「正確な音」を全ての音楽ファンへ



BK WH

ワイヤレススピーカーシステム
希望小売価格 125,000円(本体価格)/2本組



コアなオーディオファンでさえ「未体験」なリアルサウンド「スピーカーが鳴る」から「そこで歌っている」へ

ハイレゾリューション音楽をラクラク再生
世界最高レベルの192kHz/24bit DAC搭載

iPhoneなどからワイヤレスでカンタン接続
AirPlayを搭載
(Wi-Fiルーターの無い環境でもOK)

触れるだけでおしゃべりにラクラク操作
操作部にタッチパネル&LEDを採用

富士通テン株式会社 〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28

www.eclipse-td.com